

コード No.

提出日：令和 4 年 3 月 31 日

令和 年度

「ムリンガセカンダリースクール ウォータープロジェクト」報告書

特定非営利活動法人ワールドランナーズ・ジャパン 矢崎芽生

1. プログラムの目的

ワールドランナーズ・ジャパン（以下 WRJ）が支援地としているタンザニアのアルーシャ地区は、タンザニアの経済的中心地ダルエスサラームに次ぐ大都市であり、人口密集地域となっています。そこにあるムリンガセカンダリースクールは、政府方針の教育無償化の影響もあり、生徒数もこの数年で膨大に増え、校舎の増築は繰り返されても、増えた生徒数には全く追いつかず、教室は密な状態が慢性化しています。それだけに日本の様に感染防止の為にソーシャルディスタンスを確保することが困難な学習環境で授業が実施されており、運良く感染爆発とまではいかないものの、このまま感染対策を怠る状態で学校運営を行えば、いつクラスターとなってもおかしくない状態です。

またアルーシャ地区はタンザニアのサファリ観光の入り口となる都市であり、海外からの入国者が極めて多く、コロナ感染リスクが高いとも言えます。

そんな中、火急的に密な状態を改善することは難しいですが、衛生を保つ目的で重要な手段として認められる「手洗い」をする為の環境を整備することは即座に達成することが出来ます。

しかしながら、ムリンガセカンダリースクールでは、学校敷地内に水を運ぶパイプラインはあるものの、雨が降るとパイプラインに泥などが詰まり、結果として使えなくなるという状況が続いています。

また、女子生徒は学校内にある寄宿舎に入ることが一般的で、現在約 400 人の生徒が簡易的なベッドを狭間隔で並べただけの寄宿舎で生活をしています。生徒たちは水を得る為に、放課後に校外の水場まで汲みに行きます。そこで得た一杯のバケツの水のみで、炊事、洗濯、飲用水など全ての生活水を賄っている状態で、感染防止のための手洗いまでの余裕は一切ありませんから、これも不衛生極まりないと言えます。

寄宿舎でコロナウイルス感染者が出るとクラスターとなるリスクは非常に高く、感染予防のためにも手洗いによる衛生状態を保つことは、喫緊の課題となっており、安定的で十分な水の確保は重要となっています。

そのため、4つの貯水タンクを学校の敷地内におくことで、安定的な水の確保を目指します。

以前の水汲みの様子。



使えない貯水タンク



2. 主な活動内容・スケジュール

2021年3月～4月にかけて学校の敷地内に、4つのタンクを設置する。

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）

無事に、4つのタンクを設置し、使用することができるようになりました。
設置は2021年4月～5月に行うことができました。





4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

タンザニアは新型コロナウイルスの対策は国としても遅れているのですが、タンクのおかげもあり、コロナのクラスターなどは発生していないとのこと。実際に生徒が授業後に水をくむ事もなく、安全に学校生活が送れています。

5. 今後の課題

同じような支援要請はあるのですが、対象校が非常に多く、大きな支援額が必要となり、なかなか実施に踏み出せていないのが課題です。

また、今後は訪問の都度、使用状況はヒアリングし、貯水タンクを長く使用していけるようにサポートしていきたいと考えています。

WRJ としても新型コロナウイルスの影響によりマラソン大会が開催できず、資金調達が難しい中、貴団体からの助成金により現地プロジェクトに支援ができたことを大変感謝しております。